

## 自主学習会

### 日本の中世を探求する

(毎月第3金曜 13時30分～)

伊藤俊一著『莊園』(中公新書)の輪読会をメインに活動しています。2000年前後から新しい莊園の見方が発表され、この四半世紀の間で研究が深められています。この他に一般発表と見学会を各々年3回ほど行っています。一度様子を見に来てください。

### 旅と街道学習会

(毎月第4水曜 13時30分～)

参勤交代や物資の輸送、信仰や物見遊山の旅等、近世には多くの街道が賑わい、今の街道の礎ともなっています。当会はこれら房総や近郊の街道を選び、街道の歴史や役割、地理、民俗等について資料収集や現地を訪ね調査・発表しあいます。現在、木下街道、多古街道、御成街道、鎌倉街道上道を対象に多くの仲間と楽しく旅しています。

### 古代の東国探訪学習会

(毎月第3木曜 13時30分～)

東国の古代史を主として学習していますが、地域を限定せず又年代も中世迄として中広く学習し発表し議論しています。テキストは使用せず各自興味ある事を発表し互いの知識を深めています。楽しく学ぶがモットーです。

### 先史・古代学習会

(毎月第2木曜 13時30分～)

「邪馬台国」「日本人の来た道」「聖徳太子の実像」など、先史・古代の日本史には多くの謎が残っています。本会では、課題図書を読む「読書発表」で基本を学び、興味のあるテーマで発表し意見交換する「自由発表」の二つを中心に活動しております。どうぞお気軽に見学にお越しください。

## 歴博友の会入会のご案内 —友の会会員の特典—

- ☑国立歴史民俗博物館及びくらしの植物苑に無料で入館(入苑)できます。
- ☑友の会が主催する講座、講演会、見学会等各種のイベントに随時参加できます。
- ☑歴博や友の会の情報を満載した友の会ニュース(隔月刊)が送付されます。
- ☑普通会员には歴博編集の歴史系総合誌「REKIHAKU」が送付されます。

会員の種類	年会費
維持会員	(1口)100,000円
新規普通会员	*8,000円
準会員	3,000円
家族会員(2人分)	5,000円

\*2年目以降(継続普通会员)の年会費は7,000円です。

問い合わせ: 表記の一般財団法人 歴史民俗博物館振興会「友の会」係までお問い合わせください。

**友の会ホームページでも詳細をご案内しています。(検索画面から“歴博友の会”で検索できます)**

### 古文書学習会

(毎月第4金曜 13時30分～)

歴博所蔵の近世の古文書を輪番の数名が解説・発表した後、時代や地域等の背景も考えて討議し、読みと解釈を確定する形の学習会です。今は大森銀山支配下の石見国の庄屋福富家旧蔵の文書(郷宿の運営委託に関わる争いなどの記録)を読んでいます。見学歓迎です(初学者講座1年終了程度以上の方)。友の会HPの自主学習会掲示板の当学習会への参加案内を是非ご覧ください。

# 国立歴史民俗博物館 友の会



(2026.4発行)

一般財団法人 歴史民俗博物館振興会  
〒285-0017 千葉県佐倉市城内町117  
国立歴史民俗博物館内

<https://www.rekishin.or.jp>

E-Mail: [tomonokai@rekishin.or.jp](mailto:tomonokai@rekishin.or.jp)

電話 043-486-8011

FAX 043-486-8008



## 自主学習会

友の会会員による自主学習会です。友の会会員ならどなたでも参加できます。興味のある学習会に参加しませんか。

### 近世史読書会

(毎月第1水曜 13時30分～)

『近世史講義—女性の力を問いなおす』(ちくま新書)で「近世の女性たち」を学んでいます。最新研究での新しい知見、異なる視点からの新鮮な気づきが見つかるかもしれません。近世期のジェンダーにご興味がある方は是非ご一緒しませんか。

### 総合展示物学習会

(毎月第4木曜 13時30分～)

歴史好きな私達にとって展示室内は歴史ロマンの詰まった宝庫です。展示物の関連資料を読み解きながら情報交換をし、日本の歴史(生活史)を学習しています。そして学習したことを展示室で確認し、知り得たことは共有している楽しい学習会です。

### 近現代史読書会

(毎月第3火曜 13時30分～)

昨年10月から近代朝鮮の歴史に取り組んでいます。テキストの著者は、「朝鮮に軸足を置いた日本との関係史である」といいます。日本の近代化の過程も振り返りながら、韓国・北朝鮮の政治社会文化について理解を深めていきたいと思っています。

### 日本の民俗を訪ねる

(毎月第2水曜 13時30分～)

「おいしいご飯が食べたい」の一念。これが、煮ていた米を蒸すへと促し、蒸すから炊くへと誘う。歴史を刻む。土器内面に残る焦げ跡を読んで煮方を理解し、甑との出会いから糴の利点に気づかされ、罌釜と木蓋の重さに工夫の重ねを読み取る。歴史が刻まれている。人々の心模様が時代に映り、心模様が映した影が「民俗」に残る。その「影を慕ひて」…。